

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

#### 4. JP-B 62-6449

Deodorant wet napkin - obtd. by immersing paper or nonwoven fabric in  
compsn. contg. surfactant, aq. solvent, and citric, acetic or succinic acid

Patent Assignee: KYODO NYUGYO KK (KYOD )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

#### Abstract (Basic): JP 57200161 A

Deodorant wet napkin is obtd. by immersing paper or non-woven fabric in a compsn.  
comprising surfactant, acid selected from citric acid, acetic acid and succinic acid and  
aq. solvent, the pH of the compsn. being 4-5.

The surfactant includes N-octadecan- N,N-diethyl glycine, N-dodecan- N-  
methylethyl glycine, etc. The aq. solvent includes methanol, ethanol, isopropanol,  
ethylene glycol, propylene glycol, etc.

With the use of the present wet napkin, unpleasant smells caused by ammonia,  
amines, hydrogen sulphide, mercaptan, etc. can be effectively and completely removed  
without causing undesirable or toxic action to human beings.

DialogWeb Output



Dynamic Search: Derwent World Patents Index (for users in Japan)

Records for: JP87006449

save as alert...

save strategy only...

Output

Format: Full Record

Output as: Browser

display / send

Modify

select  
all none

Records 1 of 1 In full Format

refine search

back to picklist

1. 9/19/1

003647937

WPI Acc No: 83-07943K/198304

XRAM Acc No: C83-007862

XRFX Acc No: N83-015515

Deodorant wet napkin - obt'd. by immersing paper or nonwoven fabric in compsn. contg. surfactant, aq. solvent, and citric, acetic or succinic acid

Patent Assignee: KYODO NYUGYO KK (KYOD )

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Main IPC	Week
JP 57200161	A	19821208	JP 8185955	A	19810604		198304 B
JP 87006449	B	19870210					198709

Priority Applications (No Type Date): JP 8185955 A 19810604

Patent Details:

Patent	Kind	Lan	Pg	Filing Notes	Application	Patent
JP 57200161	A		3			

Abstract (Basic): JP 57200161 A

Deodorant wet napkin is obt'd. by immersing paper or non-woven fabric in a compsn. comprising surfactant, acid selected from citric acid, acetic acid and succinic acid and aq. solvent, the pH of the compsn. being 4-5.

The surfactant includes N-octadecan- N,N-diethyl glycine, N-dodecan- N-methylethyl glycine, etc. The aq. solvent includes methanol, ethanol, isopropanol, ethylene glycol, propylene glycol, etc.

With the use of the present wet napkin, unpleasant smells caused by ammonia, amines, hydrogen sulphide, mercaptan, etc. can be effectively and completely removed without causing undesirable or toxic action to human beings.

Title Terms: DEODORISE; WET; NAPKIN; OBTAIN; IMMERSE; PAPER; NONWOVEN; FABRIC; COMPOSITION; CONTAIN; SURFACTANT; AQUEOUS; SOLVENT; CITRIC; ACETIC; SUCCINIC; ACID

Derwent Class: D22; F07; P28; P34

International Patent Class (Additional): A47K-007/00; A47K-010/16; A61L-009/00; A61L-015/00

File Segment: CPI; EngPI

Manual Codes (CPI/A-N): D09-C; F02-C01; F03-E01; F04-C01; F05-A08B

DERWENT WPI (Dialog® File 352): (c) 2000 Derwent Info Ltd. All rights reserved.

(4)

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公告

⑫ 特許公報 (B2)

昭62-6449

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和62年(1987)2月10日

A 47 K 10/16

6654-2D

// A 61 L 15/00

B-6654-2D

6779-4C

発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 消臭用ウェットナブキン

⑯ 特 願 昭56-85955

⑰ 公 開 昭57-200161

⑱ 出 願 昭56(1981)6月4日

⑲ 昭57(1982)12月8日

⑳ 発 明 者 木 戸 健 一 東京都大田区南馬込2-30-4

㉑ 出 願 人 コ ン ア 株 式 会 社 東京都港区新橋1-5-1

㉒ 代 理 人 弁 理 士 佐 藤 一 雄 外2名

㉓ 審 査 官 藤 枝 洋

1

2

## ⑳ 特許請求の範囲

1 両性界面活性剤および陽イオン界面活性剤からなる群から選択された少なくとも1種の界面活性剤と、クエン酸、酢酸およびコハク酸からなる群から選択された少なくとも1種の酸と、水性溶媒とを含み、4~5のpHを有する消臭剤組成物を、紙または不織布に含浸させてなる消臭用ウェットナブキン。

## 発明の詳細な説明

本発明は、手などに付着した悪臭を除去するのに特に優れた効果を示す消臭剤含有ウェットナブキンに関する。

にんにく、たまねぎなど強い臭いを有する食品を調理する際、あるいは死体または腐敗物を処理する際には、主として手などに悪臭が付着する。このような悪臭を、特に手などの洗浄が容易でないような条件下において除去することは難かしい。

一方、ある種の界面活性剤、殺菌剤などを紙または不織布に含浸させてなる洗浄用ウェットナブキン、殺菌用ウェットナブキンは知られている。たとえば特公昭52-38789号明細書には、ヒドロキシエチルセルロースまたは植物ガムあるいはそれらの混合物と殺菌剤を含有する薬剤を不織布に含浸させてなるウェットナブキンが開示されている。

しかしながら上記洗浄用ウェットナブキンあるいは殺菌用ウェットナブキンは、洗浄効果および殺菌効果を主目的としているため、たとえば腐敗

物を処理した際に手に付着する悪臭を除去するには充分ではなかった。

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであつて、手などの体の一部に付着した悪臭を除去するのに特に優れた効果を示す消臭用ウェットナブキンを提供することを目的としている。

本発明の消臭用ウェットナブキンは、両性界面活性剤および陽イオン界面活性剤からなる群から選択された少なくとも1種の界面活性剤と、クエン酸、酢酸およびコハク酸から選択された少なくとも1種の酸と、水性溶媒とを含み、4~5のpHを有する消臭剤組成物を、紙または不織布に含浸させたことを特徴としている。

本発明に用いられる両性界面活性剤は、一般式  $R_1R_2R_3N^+\text{CH}_2\text{COO}^-$  (式中、 $R_1$ は8~22個炭素原子を有するアルキル基、ヒドロキシアルキル基、アルケニル基、ヒドロキシアルキル基、アシル基、ヒドロキシアシル基または6~15個の炭素原子を有するアルキルベンゼンから選択され、 $R_2$ および $R_3$ は、水素または $C_1$ ~ $C_{22}$ アルキル基から選択される) で表わされるグリシン型両性界面活性剤またはベタイン型両性界面活性剤である。このような化合物としては具体的に、N-オクタデカン-N-N-ジメチルグリシン、N-テトラデカン-N-N-ジエチルグリシン、N-ドデカン-N-メチルエチルグリシンなどが挙げられる。

また本発明に用いられる陽イオン界面活性剤は、一般式  $(R_1R_2R_3N)^+X^-$  (式中、 $R_1$ は

(2)

特公 昭 62-6449

3

$C_{12}$ 、 $\infty$ アルキル基、アルケニル基、アラルキル基から選択され、 $R^2$ は $C_{12}$ 、アルキル基、ベンジル基から選択され、 $Z$ はアニオンであり、 $m$ は1、2または3であるが、 $m$ が2の場合には $R^1$ は15よりも少ない炭素数を有し、 $m$ が3の場合には、 $R^1$ は9よりも少ない炭素原子数を有する)で表わされる第4級アンモニウム塩である。

$m$ が1に等しい場合には、 $R^2$ は好ましくはメチル基である。このような化合物としては具体的に、 $C_{12}$ アルキルトリメチルアンモニウムハライド、 $C_{12}$ アルキルトリメチルアンモニウムハライドが挙げられる。

$m$ が2に等しい場合には、 $R^1$ は14個よりも少ない炭素数を有することが好ましく、具体的には、ジ- $C_6$ アルキルジメチルアンモニウムハライドおよびジ- $C_{10}$ アルキルジメチルアンモニウムハライドが挙げられる。

$m$ が3に等しい場合には、 $R^1$ は9個よりも少ない炭素数を有することが好ましく、具体的には、トリオクチルメチルアンモニウムハライドが挙げられる。

これらの両性界面活性剤、陽イオン界面活性剤のうち、両性界面活性剤が好ましく、特にN-アルキル-N,N-ジメチルグリシンなどのベタイン型両性界面活性剤が特に好ましい。

界面活性剤成分としては、両性界面活性剤のみを用いてもよく、また陽イオン界面活性剤のみを用いてもよく、あるいは両者の混合物を用いてもよい。両性界面活性剤と陽イオン界面活性剤との混合物を用いる場合には、グリシン型両性界面活性剤を両性界面活性剤として用い、また第4アンモニウム塩を陽イオン界面活性剤として用いることが消臭効果を高める上で好ましい。一方グリシン型両性界面活性剤を、界面活性剤成分として単独に用いた場合にも優れた消臭効果が得られる。

本発明において用いられる消臭剤組成物の他の必須成分は、クエン酸、酢酸およびコハク酸からなる群から選択される酸である。このうちクエン酸および酢酸が好ましく、特にクエン酸が好ましい。この際、たとえばクエン酸ナトリウム、酢酸ナトリウムなどの塩類を用いることは緩衝効果が得られるので好ましい。

両性界面活性剤および(または)陽イオン界面活性剤と前記酸とを、界面活性剤100部に対して

4

酸を5~30部の割合で混合する。このようにして調製した混合物はpH 2~3を示す。この界面活性剤と酸との混合物を後述の水溶性溶媒で希釈してそのpHを4~5とし、これを紙または不織布に含浸させる。

本発明において用いられる消臭剤組成物の他の必須成分は、水性溶媒である。本明細書における「水性溶媒」なる用語は、水または水と水溶性有機溶媒との混合物を意味する。水溶性有機溶媒としては、メタノール、エタノール、イソプロパノールなどのアルコール類、アセトン、エチレングリコール、プロピレングリコールなどが挙げられる。この水性溶媒は、消臭剤組成物のpHが4~5となるような量で、消臭剤組成物中に含まれる。紙または不織布に含浸させる消臭剤組成物のpHが4より小さい場合および5より大きい場合には、ウェットナブキンにより消臭効果が充分ではなくなる。

前記の消臭剤組成物を、紙または不織布に含浸させて、本発明の消臭用ウェットナブキンが得られるが、通常紙または不織布重量の0.5~5倍好ましくは2~4倍の消臭剤組成物を含浸させる。不織布としては、レーヨン、ポリエステル、ナイロンなどの各種材料を広く用いることができる。

本発明においては、グリシン型両性界面活性剤とクエン酸との混合物を水で希釈してそのpHを4~5としたものを、紙または不織布に含浸させたものが最も優れた消臭効果を示す。

以下本発明を実施例をもつて説明するが、本発明はこれら実施例に限定されない。

#### 例 1

消臭剤組成物(a)、(b)、(c)、(d)、(e)および(f)を以下のようにして調製した。

N-ドデカノール-N-メチルグリシン100部に、クエン酸25部を添加し、次いで水で各種希釈して、pHが3.5~5.5である消臭剤組成物(a)を調製した。

N-ドデカノール-N-ジエチルグリシン100部に、クエン酸30部を添加し、次いで水で各種希釈して、pHが3.5~5.5である消臭剤組成物(b)を調製した。

$C_{12}$ アルキルトリメチルアンモニウムハライド100部に、クエン酸25部を添加し、次いで水で各種希釈して、pHが3.5~5.5である消臭剤組成物(c)

(3)

特公 昭 62-644

5

を調製した。

またN-ドデカン-N-メチルグリシン50部とN-ドデカン-N-ジエチルグリシン50部とからなる界面活性剤混合物100部に、クエン酸25部を添加し、次いで水で各種希釈して、pHが3.5~5.5 5である消臭剤組成物(d)を調製した。

N-ドデカン-N-メチルグリシン50部とC<sub>10</sub>アルキルトリメチルアンモニウムハライド50部とからなる界面活性剤混合物100部に、クエン酸25部を添加し、次いで水で各種希釈して、pHが3.5 10~5.5である消臭剤組成物(e)を調製した。

N-ドデカン-N-ジエチルグリシン50部とC<sub>10</sub>アルキルトリメチルアンモニウム50部とからなる界面活性剤混合物100部に、クエン酸25部を添加し、次いで水で各種希釈して、pHが3.5 15~5.5である消臭剤組成物(f)を調製した。

次いで、このようにして調製した消臭剤組成物(a)~(f)をそれぞれ不織布または紙に3倍程度含浸させて、消臭用ウェットナプキン(a)~(f)を製造した。

一方、玉ねぎ100g、ニンニク100g、クサヤ魚

6

肉100g、サメ魚肉100gを混合して細かくぐみ悪臭源を調製した。この悪臭源を手で取扱後に、消臭用ナプキン(a)~(f)で拭きとり、その手に付着した臭いをかいだ。

結果を表に示す。

消臭剤 pH 消臭用 ナプキン	pH 3.5	pH 4.0	pH 4.5	pH 5.0
(a)	△	○	○	○
(b)	×	△	△	△
(c)	×	△	○	○
(d)	×	△	○	○
(e)	△	○	○	○
(f)	×	△	○	△

×：悪臭はほとんど払拭されなかった。

△：悪臭はかなり払拭された。

○：悪臭はほとんど払拭された。

20